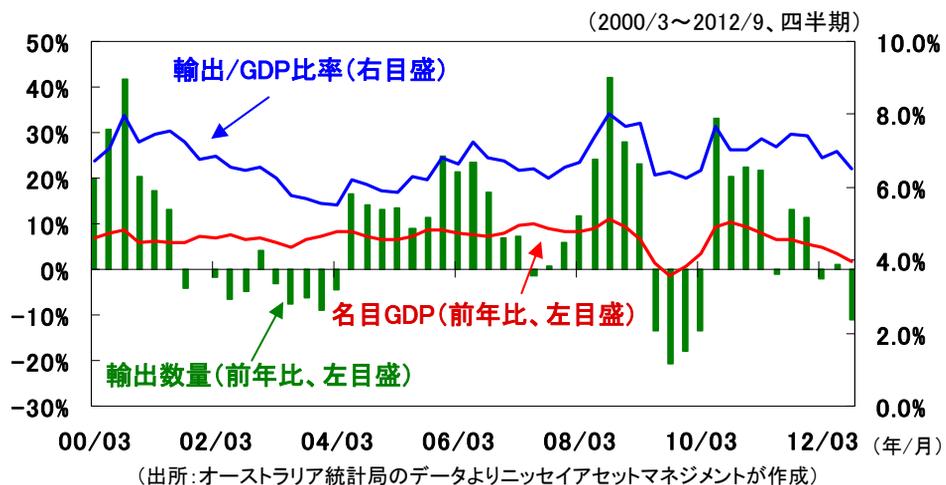




## オーストラリアの輸出が経済に与える影響について

- オーストラリアの輸出数量は、リーマンショック以降、中国など新興国景気動向の変動の影響を受けて増減幅が大きくなっています(図表1)。
- 2012年第3四半期、輸出数量は前年比-11.1%と下落していますが、名目GDPは前年比1.9%と底堅く推移し、輸出/名目GDP比率は、6.5%程度と安定しています(図表2)。2009年には、輸出数量が落ち込んだ時期に一時名目GDPも下落していますが、2000年からの推移をみるとその影響は限定的で、輸出数量の変動がオーストラリア経済全体に直接与える影響は相対的に小さいと考えられます。
- またこの影響の度合いは、実質GDPに対する各項目の寄与度でも見ることができます。2012年第3四半期における実質GDPの寄与度は、個人消費が53.2%、民間設備投資が23.9%と二つの項目で約4分の3を占めており、内需の項目の寄与度が大きくなっています。一方輸出入の寄与度は0.4%に過ぎず、内需の項目に比べて低い水準となっています(図表2)。
- 鉱山資源などの輸出増が、国内経済に好況をもたらすことは言うまでもありませんが、輸出が減少する局面であっても、個人消費や民間設備投資等の内需が堅調に推移することで、オーストラリア経済全体を支えているものと考えられます。今後は、内需の底堅さに加え、主要輸出先国である中国の景気動向にも底打ちの兆しが見られることから、オーストラリア経済は堅調に推移するものと考えています。

【図表1】 オーストラリアの名目GDP(年率)と輸出数量(年率)、輸出/GDP比率の推移



【図表2】 オーストラリア実質GDPへの寄与度内訳(2012年第3四半期)

